

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 77

千葉県立富里高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

人物に優れ、意欲的に学校生活を送っている生徒で、特に次のいずれかの項目に該当する生徒。

ア 学習成績において優れるか、生徒会活動やボランティア活動に積極的に取り組んだ生徒で、入学後も本校での学校生活に意欲的に取り組む意志がある。

イ 部活動等において、特に積極的に取り組んだ生徒で、入学後もその部活動及び学業に熱心に取り組む意志がある。

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
自己表現	次のア、イのいずれかを、出願時に志願者が選択 ア 口頭による自己表現 自己アピール（2分）とそれに関する質疑 受検者1名・評価者2名の個人での自己表現 検査時間：5分程度 イ 実技による自己表現 次の実技のうち1つを選択 硬式野球（男）・サッカー（男）・陸上競技（男女） バレーボール（男女）・バスケットボール（男女） ソフトテニス（男女）・硬式テニス（男女） 剣道（男女）・柔道（男女） 原則、受検者1名・評価者2名の個人での自己表現 （ただし、種目により複数人数で実施） 検査時間：10分程度

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査〔500点満点〕

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	10点未満の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値にK=1を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3か年の欠席日数が30日以上の場合は審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	学級活動や生徒会活動、ボランティア活動、部活動等において顕著な活動実績がある場合は加点する。 一定以上の資格を有する場合は加点する。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査（自己表現）〔100点満点〕

次のア、イについて、それぞれ2名の評価者が、3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（やや優れている）・c（標準的である）・d（やや問題がある）・e（問題がある）の5段階で評価する。

(ア) についてはaを20点、bを15点、cを11点、dを6点、eを1点とし、(イ) (ウ) についてはaを15点、bを11点、cを8点、dを5点、eを1点として、2名の評価者の評価（各50点満点）を合計し、得点化する。

評価eが1つでもある場合は、審議の対象とする。

ア 口頭による自己表現（自己アピールとそれに関する質疑応答）

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・将来性	本校入学後は積極的かつ中心となって学校生活に取り組めることが期待できる。
(イ) 表現力	テーマが明確であり、また内容を明瞭かつ意欲的に伝えている。
(ウ) 態度	発表における態度が適切である。

イ 実技による自己表現

評価項目	評価基準
(ア) 意欲・将来性	本校入学後は積極的かつ中心となって学校生活に取り組めることが期待できる。
(イ) 技術力	基礎的な運動能力や基本的・専門的な技術を身に付けている。
(ウ) 態度	発表における態度が適切である。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査（自己表現）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

〈総得点の満点の内訳〉

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点	総得点
	評定 (K=1)	加点	自己表現	
500点	135点	50点	100点	785点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面接を行う。